

## 学位請求論文審査報告要旨

2015年1月14日

申請者   Ngo Quang Vinh  
論文題目  現代ベトナム語の類別詞研究  
          —類別詞の本質とその意味・用法—

審査委員 五味政信  
          石黒 圭  
          古田元夫

### 1. 本論文の内容と構成

本論文は、筆者自らが構築したベトナム語のデータベースを使用することによって、現代ベトナム語における類別詞の体系を客観的、かつ網羅的に把握し、徹底した記述的なアプローチによって各々の類別詞の意味と用法を明らかにすることを目的としている。

ベトナム語は中国語、日本語などとともに類別詞言語 (classifier languages) の一つである。ベトナム語の類別詞については、多くの研究がなされてきたが、類別詞という名称を巡る問題（「前名詞」や「副名詞」など）から、その語数についてまで、種々の見解があり、これまで一定の基準に基づき選定された合理性のある類別詞の一覧リストは存在せず、一つ一つの類別詞の用法を確定することもできない、という問題が残されていた。本研究は、ベトナム語に存在する類別詞の文法現象についての見解を問い直し、理論的な枠組み（類別詞の品詞の確定、類別詞の認定基準の設定）を構築した上で、独自に開発したデータベースを使用して類別詞を抽出し、実際に用いられている「生の類別詞の使用」を客観的に観察し、類別詞の語数や頻度数を割り出し、さらには、「類別詞+名詞」の結合に見られる「類別詞と名詞」の意味的關係に着目するという独自の着眼点に基づいて、記述的な立場から類別詞を総合的に論じることを企図している。この意味において、本研究は従来の研究とは一線を画した、独創的な研究となっている。

本論文は2部構成となっており、目次は以下のとおりである。

#### 第1部

##### 【序章】

1. 問題の所在と研究目的・研究対象
2. 研究方法と本研究で扱うデータ
  - 2.1 研究方法
  - 2.2 本研究で扱うデータ

3. 本研究の独創性と新たな成果

4. 本論文の構成

**【第1章】 先行研究におけるベトナム語の類別詞**

1.1 はじめに

1.2 類別詞を独立した品詞として扱う観点

1.3 類別詞を名詞の下位にある品詞として扱う観点

1.4 先行研究のまとめと、その問題点

**【第2章】 ベトナム語の名詞の中の類別詞の位置とその認定基準**

2.1 ベトナム語の名詞の分類

2.2 加算・不加算性による名詞の分類と類別詞の位置づけ

2.3 類別詞の認定基準

2.4 抽出された 248 語の類別詞についての分析・考察

2.5 248 語の類別詞のグループ分け

2.6 248 語の類別詞の諸相

2.7 本章のまとめ

**【第3章】 ベトナム語の類別詞の特徴**

3.1 意味的特徴（「個別化」、「範疇化」としての類別詞）

3.2 統語的特徴

3.3 類別詞の語数とその分類

3.4 日本語との比較対照

3.5 本章のまとめ

**第2部**

**【第4章】 人間名詞に付される類別詞、その意味と用法**

4.1 人間名詞に付される類別詞の全体像について

- 「データ VN」から明らかになったこと -

4.2 人間名詞に付される個別類別詞

4.2.1 類別詞が持つモダリティについて

4.2.2 3つの主な意味的対立

4.3 人間名詞に付される集合類別詞

4.4 「*người*」の意味と用法

- 4.4.1 「*người*」の限定的な使用範囲
- 4.4.2 「*người*」と共起する名詞
- 4.4.3 「*người*」と共起しない名詞
- 4.4.4 「*người*」が名詞句を形成した場合

#### 4.5 本章のまとめ

### 【第5章】 動植物名詞に付される類別詞、その意味と用法

- 5.1 動物名詞に付される類別詞の全体像について
- 5.2 「*con*」の意味と用法
  - 5.2.1 動物名詞を特定する場合
  - 5.2.2 動物のような特徴や形状を持つ名詞を特定する場合
- 5.3 植物名詞に付される類別詞の全体像について
- 5.4 「*cây*」の意味と用法
  - 5.4.1 木の全体を特定する場合
  - 5.4.2 木の幹のような形を持つ（棒状の）物を特定する場合
- 5.5 本章のまとめ

### 【第6章】 無生物名詞に付される類別詞、その意味と用法

- 6.1 無生物名詞に付される類別詞の全体像について
- 6.2 無生物名詞に付される類別詞の分類とその意味・用法の考察
  - 6.2.1 無生物名詞に付される個別類別詞
  - 6.2.2 無生物名詞に付される集合類別詞
- 6.3 「*chiếc*」と「*cái*」
  - 6.3.1 辞書記述における「*chiếc*」と「*cái*」
  - 6.3.2 「データVN」の中の「*chiếc*」と「*cái*」
    - 6.3.2.1 「*chiếc*」、 「*cái*」の出現頻度数とカバーする対象範囲
    - 6.3.2.2 「データVN」から見た「*chiếc*」と「*cái*」の用法
- 6.4 本章のまとめ

### 【終章】

- 1. 本論文の類別詞研究の視点と成果
- 2. 本論文の各章の研究概要
- 3. ベトナム語の類別詞についての新たな知見

#### 4. 今後の課題

##### 【参考文献】

【付録(Appendix)】 「現代ベトナム語における類別詞の詳細一覧リスト」

## 2. 本論文の概要

序章では、本論文の目的として、①どのような語を類別詞として認定するかという基準について考察を行ない、明確な認定基準を設定した上で、電子新聞と短編小説集から独自に構築したデータベースを用いて類別詞を抽出し、その出現頻度を定量的に提示すること、②抽出した類別詞のグルーピングとその分析・考察を行ない、また、出現回数と使用範囲を基に選定される、グループごとの代表的な類別詞の意味・用法を詳細に記述することによって、ベトナム語類別詞の全体像を追究することを研究目的とすることが掲げられ、さらに、構築されたデータベースの概要等について述べられる。

序章以下、本論文は6つの章と終章によって構成されている。

第1章では、ベトナム語の類別詞についての先行研究を整理し、先行研究には①類別詞を独立した一品詞として認定する見解と、②類別詞を名詞に属する一語群と規定する見解の2つの大きな流れがあることを紹介する。さらに、それぞれの見解についての代表的な研究を取り上げて、分析を加え整理を施している。

第2章では、ベトナム語の品詞論における類別詞の位置を明らかにするために、名詞の分類についての代表的な考え方と観点を整理・紹介し、類別詞が名詞の下位に分類される語群であるという位置を先行研究の成果を踏まえながら確認し、さらに、この類別詞が「数詞+類別詞(+名詞)」という構造を取ることができるという意味で「可算名詞」の仲間であることが指摘される。また、どのような語を類別詞として認定するかという基準について考察を加えて認定基準を設定し、その認定基準に基づいて類別詞の一覧リストを提出するため、類別詞と同属の「可算名詞」の仲間との相違点についても論じている。その結果、これまで断片的にしか指摘されてこなかった、ベトナム語における類別詞の全体像が明らかとなり、独自に構築したデータベース（「データVN」）を使用して、合計248語の類別詞が抽出されたことを述べる。類別詞248語の延べの出現回数は8,111回であり、類別詞が「データVN」全体の0.71%を占めることが指摘される。このことは、単純計算すると、「データVN」1,600頁（A4版）内において、1頁当たり、類別詞が約5.07語登場していることになる。

第3章では、抽出された248語の類別詞の意味と用法を考察する前段階として、類別詞全体の特徴が検討される。「データVN」に依拠しつつ、ベトナム語の類別詞の意味的特徴・統語的特徴と類別詞の種類とその分類について考察・分析が行なわれる。さらに、言語類型論の角度から、ベトナム語の類別詞の諸特徴をより明らかにしようとする目的で、同じ類別詞言語の日本語との比較対照が行なわれ、両言語では、名詞の数量を言語化する際に

その類別詞が義務的に用いられるという共通点と、名詞に対し数を指定する数詞を補助する機能、及び、名詞を特定する機能においても共通していること、さらに、名詞を範疇化する機能を有するという特徴、及び、上位範疇の類別詞と下位範疇の類別詞を有するという特徴も共通していることが検討される。他方で、統語的機能においては、類別詞の語順という点（ベトナム語の場合は、類別詞は基本的に名詞の前に現れるが、日本語の場合は、類別詞は名詞の前にも名詞の後ろにも現れる）で両言語の類別詞は相違点を見せていることも指摘される。

第4章では、人間名詞に付される類別詞に関して論じられる。「人間名詞」には親族関係を示す名詞や職業を示す名詞など様々な種類があり、それぞれの人間名詞に対し異なった類別詞が使い分けられており、計53語の類別詞が抽出される。その中で、「*người*」が人間名詞と共に起する代表的な類別詞であり、一般の人間名詞に付与される中立的な類別詞であり、それ以外に、「*thằng*」、「*gã*」、「*nàng*」、「*con*」など、他の52語の類別詞も抽出され、これらの類別詞は後続する人間名詞の意味的属性に合わせて付与される。53語の類別詞の延べ出現回数は2,051回（全8,113回のうちの25.3%）、すなわち、出現回数の中では、人間名詞に付される類別詞は全類別詞の出現回数の4分の1を占めることになり、類別詞の中で大きな勢力を誇っている。

次に、このグループにある類別詞の特徴とも言える、「上下」関係、「尊敬 - 軽蔑」、「性別」という3つの大きな意味的対立について考察が行なわれ、この3つの意味的対立がどのように類別詞の選定に関与しているのかという点に着目して論じられている。

第5章では、動・植物名詞に付される類別詞の全体像について検討されている。動物名詞を特定する場合は、動物の種類やサイズなどを問わず、一つ同じ範疇のものとして扱われ、どのような動物に対しても類別詞「*con*」（ex. *một con cá* 一匹の魚、*một con bò* 一頭の牛、*một con gà* 一羽の鶏）が用いられる。動物名詞に付される類別詞は38語（出現回数504回）が抽出され、「*con*」が出現回数が最も多い（358回、全体504回の71.03%）。日本語の場合は動物の種類や動物のサイズによって類別詞、「匹」、「羽」、「頭」、「杯」などが使い分けられているが、ベトナム語の場合は動物の種類や大きさに関わらず、一つの類別詞「*con*」が用いられている。植物名詞を特定する場合は、どのような植物に対しても類別詞「*cây*」（ex. *một cây sấu riêng* 一本のドリアンの木、*một cây dâu tây* 一本のイチゴ）が用いられる。植物名詞に付される類別詞は67語（出現回数210回）が抽出され、これら67語の類別詞の延べ出現回数は210回であり、抽出された全248語の類別詞（全8,111回）の2.59%を占めるに過ぎない。植物名詞に付される類別詞の中での高頻出上位語は、「*cây*」（25回、11.9%）、「*quả*」（15回、7.14%）、「*hạt*」（14回、6.66%）の3語である。「*cây*」は、木の全体を特定する場合に用いられている（ex. *cây tre* 竹の木）。そして、「*quả*」と「*hạt*」は木の部分を特定する場合に用いられている（ex. *quả mít* ジャックフルーツの実、*hạt hướng dương* ヒマワリの種）。

第6章では、無生物名詞に付される類別詞の全体像について検討される。無生物名詞は、有生物（人間・動物）と植物を除く、物体を表す物体名詞（ex. kim khâu 縫い針、船 thuyền）から、自然現象（ex. gió 風、sóng thần 津波）や抽象名詞（ex. cách mạng 革命、văn minh 文明）に至るまで、有生性のない幅広いカテゴリーに亘るため、それに対応する類別詞が最も発達しており、206語が抽出された。出現回数の面では、206語の類別詞の延べ出現回数は5,346回（全8,111回のうちの65.9%）であり、全類別詞（248語）の出現回数の約3分の2を占め、ベトナム語の類別詞の中で出現回数の面で最も大きな位置を占めている。また、206語の類別詞の中では、類別詞「*chiếc*」の出現回数が最も多く（995回）、グループ全体の出現回数（5,346回）の18.6%を占めている。この結果から、先行研究では、ベトナム語を代表する類別詞の一つとして常に議論・考察の対象として取り上げられてきた「*cái*」（出現頻度数は257回、延べ出現回数8,111回全体の3.17%）に代わって「*chiếc*」がベトナム語の無生物名詞と共起する類別詞の代表格である可能性が浮上したことが指摘される。

そして、終章では、本論文の独創性と新たな成果について整理されている。独創性については、これまで研究者間で一致した見解がなかった、どの語を類別詞として認定するかという点に関して、「数詞/量語＋類別詞＋名詞」という形式に限定し、その限定によって「類別詞の認定基準」の設定を可能としたこと、そして、独自に現代ベトナム語のデータベースを構築し、その確実なデータに基づいて認定基準に合致する類別詞を抽出しようと発想したこと、この2つが本研究の独創性であると述べられる。

また、本研究の成果については次のように述べられている。本研究の第1の成果は、ベトナム語の類別詞に関する多くの重要な新たな知見が獲得されたことであり、それらは、類別詞の語数、類別詞の出現頻度数、主要類別詞の選定、ベトナム語の代表格類別詞に関する議論等である。本研究で「類別詞の認定基準」を設定し、データに基づいて類別詞を抽出し類別詞の語数を明らかにしたこと、類別詞の出現頻度数から主要類別詞を確定したこと、ベトナム語の代表格類別詞に関する新たな知見を提出したこと、さらに、類別詞の一覧リストを提示したこと等がその成果であるとしている。また、本研究の第2の成果は、従来の先行研究での類別詞の統語的側面からの研究成果を踏まえつつ、現代ベトナム語の一定のサイズの客観的なデータベースに基づき、記述的な立場から類別詞という語群を追究しベトナム語の類別詞の世界を網羅的に記述したことであるとしている。

### 3. 本論文の成果と問題点

本論文の主な成果は、以下の3点に纏められよう。

第一の成果は、コーパスに基づく包括的、かつ、実証的な類別詞の分析を行なったことである。まだ十分にコーパスの開発が進んでいないベトナム語研究の現状において、独自のコーパスを構築することによって、ベトナム語の類別詞の実態を定量的かつ包括的に分析したことは高く評価されて良い。調査の結果、248語の類別詞が抽出され、これまでどの研究者も明示的な言及を避けて来た「類別詞の語数」の検討が可能となり、「類別詞一覧

リスト」を提示し、さらに、類別詞の出現頻度数を割り出すことによって「主要な類別詞」についての議論も実現可能となった。従来ベトナム語学の世界では、無生物名詞に付される主要類別詞として「cái」が、そして、有生性を持つ名詞に付される主要類別詞として「con」が伝統的に取り上げられてきたが、コーパス駆動的なアプローチによって「cái」に代わって「chiếc」が優勢な位置を占め、また、「con」とともに「người」も重要な位置を占めている、という重要な言語事実の発見に繋がった。

第二の成果は、厳密な「類別詞の認定基準」を設定したことである。コーパスによる定量的な分析を可能にするために、ベトナム語の類別詞の定義を限定的で厳密なものとする必要があったのだが、このことが、明確な定義に基づく堅実な研究手法を採用することに結び付いた。その結果、これまで主観的な記述に留まりがちだった類別詞研究を、明示的な手続きに基づく客観的な記述研究へと飛躍的に前進させ、ベトナム語の類別詞研究に新たな地平を切り拓くという成果に結実させることができた。

第三の成果は、対照言語学的・言語類型論的展開可能性を包含する研究となったことである。ベトナム語の類別詞を扱いつつも、日本語も視野に入れたこと、また、類別詞の体系性も強く意識されたことで、今回の研究成果がベトナム語という個別言語に留まらず、高い汎用性を持つことになり、対照言語学や言語類型論に理論的に貢献できるスケールを備えた研究となっている。

以上のように優れた成果を備えた本論文であるが、問題点も存在する。

第一の問題点は、独自に構築したデータベースが、バランスのとれたコーパスとなっていないという点である。構築されたデータベースは、ベトナムで最も読者が多いとされる電子新聞 VN express 1 か月分の全記事データ、及び、ベトナム作家協会 Vietnam Writers' Association が 2013 年に公表した随筆・短編小説集の電子版データの総合であり、総データ量は約 10.97 Mb、総ページ数は 1,600 頁（A4 版、電子新聞 1,391 頁、短編小説集 209 頁）、延べ語数 1,136,000 語である。このコーパスの設計が新聞に大きく偏っているため、均衡コーパスとなっておらず、その結果、類別詞に関する興味深い新たな知見が新聞のジャンルの性格を強く帯びた、限定的な結論に留まっており、構築されたこのデータベースの範囲が限定的であった点が惜しまれる。汎ジャンルのバランスのとれた均衡コーパスの利用ができていれば、いっそう体系的、網羅的なベトナム語類別詞の記述が実現できたであろう。

第二の問題点は、言語学的な見地から、やや違和感のある術語使用が散見されることである。例えば、類別詞の機能の一つとして、「定」「不定」(definite, indefinite) の概念が取り上げられているが、この概念は英語の冠詞などに結びつけられるもので、聞き手がそれと認定できる（と話し手が想定する）ものである。「特定」は定冠詞や指示詞によって担われる機能であり、類別詞は類を限定する機能を持つが、それは「限定」であって「特定」とは言い難い面がある。また、類別詞の機能として、「モダリティ」にも言及されることも気になる点である。確かに「モダリティ」の定義は多様であるが、言語学の「モダ

リティ」では類別詞はその外に置かれるのが一般的であり、もしも「モダリティ」をその機能として含めるのであれば、明確な定義付けが必要となろう。参考文献を見ても、類別詞に直接関わるものが中心であり、言語学全般へのいっそうの目配りがあれば、さらに説得力をもった議論が展開できたのではないだろうか。

以上の問題点は、しかしながら、上述の成果の部分で言及した、本論文がもたらした豊かな学術的成果の価値を決して損なうものではない。また、こうした問題点については、本論文の筆者、**Ngo Quang Vinh** 氏にも十分な自覚があり、筆者の今後の研鑽によって克服されることが期待される。

#### 4. 結論

以上のことから、本論文が学位論文に値する優れた研究であることを認め、**Ngo Quang Vinh** 氏に一橋大学博士（学術）の学位を授与することが適当であると考えます。

## 最終審査結果

審査委員 五味政信  
石黒 圭  
古田元夫

2014年12月22日、学位請求論文提出者、Ngo Quang Vinh 氏の論文「現代ベトナム語の類別詞研究 一類別詞の本質とその意味・用法一」に関する疑問点について逐一説明を求め、あわせて関連分野についても説明を求めたのに対し、Ngo Quang Vinh 氏はいずれも十分かつ適切な説明を行なった。

よって、審査員一同は一致して、Ngo Quang Vinh 氏が学位を授与されるに必要な研究業績および学力を有すると認定し、最終試験において合格と判定した。

(以上)